

宮城山岳通信 第30号

目次

巻頭言	支部長 2 頁
定例役員会報告 (7月)	事務局 2~4 頁
第5回山岳古道調査特別委員会報告	事務局 4 頁
宮城支部 山行報告 ☆オーストリア・トレッキング	草野洋一 5~9 頁
行事記録	
☆「山の天気ライブ授業」	富塚和衛 10~12 頁
☆第7回 山形・宮城支部交流会	富塚和衛 12~13 頁
☆第36回 東北・北海道地区集会、 青森支部創立30周年記念集会	千石信夫 13~14 頁
☆宮城支部ビールパーティ	鳥山文蔵 14~15 頁
準会員 入会紹介	事務局 15 頁
今後の行事予定	事務局 15 頁
編集後記	会報・編集出版委員長 . . . 15 頁

巻 頭 言

支部長 千石 信夫

残暑お見舞い申し上げます。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

今年の夏は猛暑、いや酷暑というべき日が続きました。この暑さは、最近に無い厳しい夏でしたので、体力を温存しながら乗り切ったと思っております。

ずいぶんと昔の話ですが、山で不覚にも熱中症を患ったことがあります。体力に自信もあったこともあり油断してしまいました。夏山で天气に恵まれて快適に歩いていたところ、後頭部に長時間、日照にさらされて、水分補給も不足したことだと思いますが、夕方宿泊地に着いてから、頭痛、吐き気などで大変な思いをしたことを思い出しました。会員の一人が適切な応急処置をしてくれて事なきを得ました。

登山中のあらゆる事故については、常に想定していなければ安全な登山はできないことを心にとどめておかなければなりません。会員の皆様は経験豊富だと思いますが、人は忘れることが当たり前、定期的に知識の確認と共有を心しなければなりません。「山の天気ライブ授業」も良い刺激を受けました。“知識は力なり、継続は力なり”、山に関する勉強や知識の確認などを行事に組み入れて考えていきたいと思っております。

話題は変わりますが、昨年から今年にかけて入会された方が準会員と支部友会員を含めて6名となり、大変頼もしく感じております。これから会員として支部行事にとどまらず、全国集会や本部の集会委員会の行事などにも積極的に参加していただき、クラブライフを楽しんでいただければありがたく思います。

これからどうぞお付き合いのほど宜しくお願い致します。

先日の役員会において、検討したことがあります。それは個人情報決め事があり、会員名簿をお知らせしていなかったことが取り上げられました。支部の皆様には、どのような方が会員なのか分からないという状況では、仲間意識などが培われないでしょうし、会員同士の連絡などに支障があります。皆様の同意をいただいたうえで、支部会員、準会員、支部友会員を網羅した名簿を公表する方向で進めることにしたいと思います。会員同士、気軽にお付き合いができる仲間となって欲しいと願っております。

最後に、この通信が発行される頃は、涼しくなっていることを祈ってご挨拶といたします。

【役員会議事録】

■令和5年7月定例役員会

日 時：7月28日（金）18：00～

場 所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、冨塚、高橋、千葉、草野、横山、鳥田笑美、遠藤、鳥山、計9名

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会から（冨塚）

(1) 令和5年度通常総会の結果について

6月24日に本会の通常総会が開かれ、議事はすべて可決された。総会終了後の臨時理事会で会長に橋本しをり氏が選ばれ、初めての女性会長となった。

(2) 「山の天気ライブ授業」実施結果について

6月17、18日の両日、山岳気象予報士の猪熊隆之氏を講師に招き宮城支部主催として実施。初日の座学（遠刈田地区公民館）は約40名、2日目の実学（刈田岳から熊野岳往復）

に約 30 名が参加、雲の流れや形から天気を読み解き方などを学んだ。

(3)宮城・山形支部交流会実施結果について

上記ライブ授業 17 日の夜、山形支部との交流会を「アクティブ・リゾート宮城蔵王」で開催。両支部から 15 名が集まり、飛び入り参加の猪熊講師を交えて懇親を深めた。来年度は山形支部の主催となる。

(4)第 36 回東北・北海道地区集会について

青森支部創立 30 周年記念として 7 月 1 日、八戸プラザホテルで開催された。東北、北海道のみならず全国から 130 名ほどの会員が集まり、盛大な集会となった。来年の開催支部は福島支部となった。

(2~4 については後記「行事記録」参照)

(5)『山岳』第 118 号 (2023 年度版)「支部の活動報告」原稿について

富塚事務局長が作成した。

(6)新入会員等について

石川弘子 (仙台市) と渡辺典男 (亶理郡山元町) 2 人の準会員が入会した。これでコロナ以降、準会員 4 名、支部友 2 名の 6 名が入会した。(後記「準会員 入会紹介」参照)

(7)安全ハンドブックについて

(公) 日本山岳ガイド協会作成の「安全登山ハンドブック 2023 年版」を配布。希望者は宮城支部の事務局まで。

(8)2023 年度役員連絡網について

各委員会及び監事を担当する会員の連絡先、携帯電話番号を記載した一覧表を作成。

ロ) 山行集会委員会からの報告 (千石)

(1) 露払い山行 (水引入道) 実施結果

6 月 25 日に 7 名が参加し水引入道に登った。屏風岳は時間切れで諦めた。(前号に掲載)

(2) オーストリア・トレッキング (千葉)

7 月 14 日から 23 日まで 8 名が、オーストリ

アのチロル、ザルツブルクなど、天候にも恵まれトレッキングを楽しんだ。

(後記「山行報告」参照)

(3) 第 11 回登山教室の中止について

7 月 9 日に予定した登山教室は諸事情により中止とした。

尚、梅雨明け以降、猛暑が続き、夏山山行は中止、9 月から山行を再開したい。

ハ) 会報・編集出版委員会から (鳥山)

「宮城山岳通信」第 29 号は 7 月 14 日にアップした。会員宛にメール配信していないようなので、至急作業をする。

次の第 30 号に向けて原稿依頼。

ニ) メディア委員会から (富塚)

○ ツイッター原稿のお願いについて

各山行が終わって最も早い報告は現時点で「宮城山岳通信」だが、加藤委員長よりもっと早く報告できるツイッター活用の提言があった。山行が終わったら短いメモと記録写真があれば、すぐ HP へアップできる。

ホ) 山岳古道調査特別委員会から (富塚)

(1) 第 5 回山岳古道調査特別委員会の開催

8 月 31 日 (木) に開催、各古道の調査進捗状況を確認する。

(2) 熊野古道集中山行イベントのお知らせ

本部の山岳古道調査 PT から来年 5 月 15 日~19 日、熊野古道を集中山行する案内がきた。

(3) 関山街道フォーラム、メルマガの件

7 月 30 日 (日) に関山街道フォーラムが「関山街道作並地区を巡る探訪会」を実施する。古道調査の関係もあり遠藤会員が参加する。

《審議事項》 なし

《その他》

(1) 8 月 3 日に開催するビールパーティは、現時点で参加者は 9 名。(後記「行事記録」参照)

(2) 新入会員も増え、ここで宮城支部の「会員

名簿」を作成すべきとなり準備作業に入る。
会員同士の交流促進に役立てたい。

【第5回山岳古道調査特別委員会】

日 時：令和5年8月31日18:00～

場 所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、冨塚、柴崎、高橋、佐藤、遠藤、加藤、鳥山 計8名

これまで4月、7月、8月、東京で開催された山岳古道調査本部会議の議事録説明があった後、打ち合わせ事項に入った。

(1) 各古道チーフからの報告

○栗駒古道(加藤)

・ほぼ作業は終わっている。地元郷土史家の菅原次男氏の話を加筆し、10月までには終わらせたい。

・柴崎氏から“世界谷地原生花園の原生花園という表記は、北海道で使われるべきもので、『世界谷地湿原』に表記すべき”とアドバイス。

○出羽仙台街道中山越 中山峠・山刀伐峠
(冨塚)

・ほぼ必要な事項は書き終えた。今後は多少、内容を精査し終わらせたい。

○関山街道 嶺渡り古道(遠藤)

・手書き地図と写真は出来ていない。写真は「関山街道フォーラム協議会」の写真を使わせてもらう。地図は写真が出揃ってから作る。

・古道の正式名称表記について、同協議会の横山修司氏に説明する。

○二口街道 二口峠(千石)

・外部協力者の中で二口街道ツアーガイド3氏の名前が判らない。教えてほしい。

・古道正式名称を上記に修正する。

・テンプレートは資料として揃えたが、編集作業は終わっていない。山形側が未調査。

・柴崎、高橋両氏より、地形的表記の「二口峡谷」と植生的表記の「二口溪谷」がある。秋保町史では「峡谷」を使っているとの話。今後詰めることに。

・柴崎氏より“磐司・磐三郎兄弟”の伝説をもっと色濃く打ち出すべき、と指摘。

○蔵王古道(佐藤)

・原稿作成のためのテンプレートはまだで、栗駒古道のテンプレートを参考にまとめる。

・古道の正式名称を「蔵王山の信仰の道」から「蔵王古道」に修正する。

・冨塚氏より「蔵王古道」の範囲は、遠刈田から山形県側の宝沢まで。山形側は山形支部が調査する。

・柴崎氏より“蔵王の標高の目安となる1合目から10合目までを表記すべき”と指摘。

(2) 全体スケジュール(冨塚)

・本日配布したテンプレートに関する意見や訂正箇所があった場合、9月末まで冨塚委員長宛てにメール等で連絡する。

・11月までに各古道の最終テンプレートを作成、完成品を作り上げる。

・12月に第6回山岳古道調査特別委員会を開き、最終合意を取り付ける。

・令和5年度内に本部へ提出する。

(3) その他(冨塚)

・古道軌跡の書き方：以前に配布した資料によると、蔵王と栗駒はAパターン、残り3古道はBパターンになる。

・ルート図の書き方は、「原稿作成のためのテンプレート」末尾にある『山岳古道調査原稿チェック表』の文字原稿欄「ルート図(地形図)を書いた」項目に沿って作ることに。

【宮城支部 山行報告】

アルプス・トレッキング

報告者 草野洋一

実施日 令和5年7月14日(金)～23日(日)
山 域 オーストリア・チロル地方
参加者 千葉正道(リーダー)、千石信夫、富塚和衛、富塚真味子、鳥田笑美、草野洋一＝
会員、鳥田伊志＝支部友、千石裕子＝一般
計8名

ヨーロッパ・アルプスの東部に位置するオーストリアの3拠点をベースに、8人でトレッキングに行ってきました。モーツァルトの生誕地も訪ねました。

7月14日(金) 前泊して羽田空港に7時集合。9時40分発ルフトハンザ航空LH715便に搭乗。ミュンヘン空港着16時50分(以下現地時間、時差7時間)。専用車で最初の拠点地チロル州ゼーフェルト(Seefeld=1180m)へ。20時30分ホテル「Haymon」着。時間が遅いので用意されていた夕食をとってから部屋へ。

○15日～16日 ゼーフェルト＝1964、76年の冬季オリンピック開催地インスブルック近郊でジャンプ競技等の会場になった。

15日(土) トレッキング初日は郊外をゆっ



▲ゼーキルヒル教会をバックに(チロル州ゼーフェルト)

くりと歩くコースへ。春の雪解けとともに姿を現し、秋に姿を消してしまう湖を目指す。快晴のなかホテルを9時すぎに出発。10分ほど歩いた駅前の案内所で今日予定しているコースの説明を受けて、湖水群の一つ Moserer See(1284m)へ昼前に着く。地元の人が海水浴ならぬ湖水浴をしていた。海に面していないオーストリアでは、晴れた日は湖水浴を楽しんでいるようだ。

お腹がすいたころ、目指すレストラン「Wildmoosalm」に到着して昼食。冷えた生ビールを飲んで大満足。食事のあと快晴で暑い中、市内に戻るコースを歩いていると、明日登るライター・シュピッツェ(Reither Spitze2374m)がくっきり見える。その山容は槍ヶ岳の形にそっくり。山頂の右下に肩の小屋を思わせる山小屋が見えた。

16時にホテルに着き、17時夕食。18時30分から市内の広場でサマーコンサートが開かれるとの看板を見て、皆で出かけた。地元の人がそれぞれの楽器を携えて演奏しているような素朴な音楽祭だった。昨日は遅い到着だったので、今日は軽いハイキングのつもりだったが、33度超の強い日射しの中、歩数計は3万歩近い数字を出していた。

16日(日) ゼーフェルトの人気コースであるライター・シュピッツェへ。ホテル8時30分出発。曇り空で肌寒い。駅から歩いて15分ほどで地上ケーブルカーの乗り場。終点から空中ケーブルカーを乗り継ぐ。降り場にはレストランが併設されていた。

9時40分、登山開始。尾根伝いにピーク2つを越えて、昼前に頂上直下のコルで小休止。この先、ヤセ尾根の岩場が連続し、梯子を使って登るなど緊張を強いられる。12時45分、



▲ゼーフェルターシュピッツェ(2221m)からライターシュピッツェ(2374m)へ向かう稜線を歩く(チロル州ゼーフェルト)

頂上。360度の展望を満喫して、13時に反対側に下山する。肩の小屋を思わせる小屋 Nordlingerhutte に13時30分着。生ビール「Zipfer」を飲みながら遅い昼食をとる。14時30分、小屋を出る。巻き道を通り、ケーブルカー乗り場に15時30分。地上ケーブルカー



▲ライターシュピッツェにて



▲ネルトゥリンガーヒュッテ
(ドイツ山岳協会の山小屋)

を乗り継ぎ、ホテル着16時45分。好天に恵まれた一日だった。

○17日～18日 ハイリゲンブルート

(Heiligenblut 1291m)

17日(月) ホテル発8時30分。専用車で次の宿泊地ハイリゲンブルートへ。途中、高速道路沿いにスワロフスキーの大きな工場があった。Kitzbuhel、Lienzを通過。朝方曇っていたが昼前に快晴になり、有料道路に入ると眼下の溪谷を挟んで連山が見えるところになると、ドライバーは“ビューポイント！”と言って度々停車。

13時40分、ハイリゲンブルート着。「Hotel Heiligenblut」にチェックインしてから町の散策へ。町のシンボルで尖塔が際立つ教会を見学してインフォメーションセンターへ。明



▲ハイリゲンブルートに向かう途中



▲ハイリゲンブルート村

日と明後日のコースの説明を受け、情報を取得した後、各自買い物。16時40分にホテルに戻り夕食。ホテルへ帰るときに、今旅行で初めて日本人のツアー客に遭遇した。22時過ぎに雷雨があった。

18日(火) 曇りの中、近郊の山シャーレック(Schareck 2606m)へ。8時30分ホテル発。登山口8時50分。樹林(ドイツトウヒ)の中をしばらく歩く。用材と枯れた樹木をチェーンソーで伐採していた。今旅行中、移動するバスから所々で枯木が目についた。ケーブルカー中間駅ROSSBACH(1750m)に10時25分。ここから上部ケーブルカーを利用する。10分余り乗り、駅に降りると雲海の中だった。11時30分頂上。視界もよくなり周囲の山々を存分に見ることができた。

11時45分、中間駅に向かって下山する。



▲シャーレック(2607m)山頂にて



▲シャーレック中腹に咲くエーデルワイス

登山道に沿って山肌を赤く染めるアルペンローゼなどの高山植物が途切れなく咲いていて、種類も多く、お花畑を歩いている感じだ。そのなかでヨーロッパ・アルプスを象徴するエーデルワイス2輪を奇跡的に見つけることができた。見つけたのは鳥田笑美さん。今回のトレッキングで見たのは、この2輪だけだった。見晴らしのよいところで行動食の昼食をとり大休止。

14時15分、中間駅に着き、ケーブルカーに乗り市内へ戻る。14時50分、ホテル着。夕食前にホテルのプールとサウナに行く。16時すぎに雷雨。

○19日～21日 ザルツブルグ(Salzburg)

19日(水) 夜半に雨。山間部に立地するため朝はひんやりする。8時30分、ホテル発。ヨーロッパ・アルプスの中で随一の景観を誇るアルペン山岳道路(全長58km、有料)を通して富士山より22km高いオーストリアの最高峰グロースグロックナー(Grossglockner 3798m)の麓を目指す。



▲オーストリア最高峰グロースグロックナーをバックに

山腹を走る山岳道路だけに、たびたびドライブからビューポイントと勧めめる地点で停車。そのたびにカメラを持って降りる。谷あいには牧場の草原と家々が点在する深い溪谷が続いている。次第に前方に山並みが見えてきた。展望台のあるフランツ・ヨーゼス・ヘーエ(2370m)の駐車場に9時30分着。駐車場から岩峰群を見ながらグロースグロックナーがよく見えるところまで歩く。その途中で、マーモットが草を食んでいるかわいい姿が目前に。快晴で360度見渡せる絶好の景観を堪能できた。

頂上直下には東部アルプス最大のパステルツェ氷河(Pasterze Gletscher)も一望。展望台はレストラン、博物館などがあり大きな施設だ。ここで昼食をとり、各人お土産等を買って13時出発。帰途の途中、山岳道路最高地点(2571m)エーデルワイスシュピツェで下車。ここから登山路を登れば3000m級の山々を見渡すことができるが、30分ほど歩いたところで時間的制約もあって引き返した。

ドイツ領を30分ほど走り、日射しの強いなかモーツァルト生誕地とサウンド・オブ・ミュージックの舞台になった古都ザルツブルグへ。16時50分、「PARK HOTEL」着。チェックインのあと、フロントで教えてもらった、歩

いて20分ほどのビアガーデン&レストラン「IMLAUER」で夕食をとる。大ジョッキのビールが腹に染みわたった。

20日(木) ホテル8時30分出発。9時15分、駅前からバスに乗り、サンクト・ギルゲン(St. Gilgen)の街に10時20分着。ゴンドラで山頂駅へ。15分ほどでツヴェルファーホルン(Zwölferhorn 1521m)山頂。快晴で山頂から眼下の湖と向かいの山々が一望できた。山頂



▲ツヴェルファーホルン1521m地点にてを反対側に下ると小さなヒュッテがあり、その先に小さなピークがあり、そのピークの周囲を一周してゴンドラ山頂駅へ戻った。山頂駅のレストランで眼下の街並みを見下ろしながら、昼食とビールで喉をうるおす。街へ降りて山頂から眼下に見えたヴォルフガングゼー湖畔で休憩。

14時35分のバスでザルツブルグへ戻る。新市街のミラベル宮殿(Mirabell)と同庭園を



▲ミラベル庭園

見学。ここで演奏会があることを知ってチケ

ットを申し込んだが、当日券はすでに満席とのことで翌日の予約をした。18時、夕食は昨日と同じ「IMLAUER」で。ザルツァッハ川沿いを散策してホテルへ帰る。

21日(金) 9時前にホテルを出て、駅前からバスで旧市街へ。丘の上にある街のシンボル、ホーエンザルツブルグ城(Festung Hohen-salzburg)に登る。城を下りて大聖堂(Dom)、モーツァルトの生家と博物館となっている住居を見学。目抜き通りのゲトライデガッセは人混みが多かった。その通りを歩いていたらカフェ「モーツァルト」とあるのを見て店に入って休憩。街の名物菓子「ノッケル」を注文。街を散策してビアガーデン「BRAU」に入って、昼食兼早い夕食をとる。



▲ザルツブルグの旧市街にある
カフェ・モーツァルト

16時40分、店を出て駅に向かうべくバス停へ。その途中、ザルツブルグでベストセラーのチョコレートを「Furst」で購入。ホテルに17時40分。ひと休みして、前日に予約をしたミラベル宮殿の室内楽コンサート会場へ。20時から四重奏(バイオリン、ビオラ、チェロ、ホルン)を聴く。休憩をはさんで2時間。観客は150人余で満員だった。22時終演。

22日(土) 曇り。ホテルのBOX(朝食)を持

ってザルツブルグ中央駅へ。7時15分発ミュンヘン行き快速に乗車。途中、国境線で停車、パスポートチェックがあった。ミュンヘン北駅で空港行きに乗り換え、9時過ぎにミュンヘン空港到着。ルフトハンザ航空LH714便で13時20分離陸。

23日(日) 8時15分(日本時間)、羽田空港着。全員、元気に帰国した。荷物を受け取って解散。それぞれ仙台へ帰る。



前回2019年のアルプス・トレッキングに続いて、今回も千葉会員のルート、宿泊地などオーダーメイドで日程を組んでもらい、ガイド役でお世話になりました。滞在中、天候に恵まれ、存分にオーストリア・アルプスを堪能できて大満足でした。ホテルでの食事も地ビール、ワインで食が進み、ボリュームもあって美味しかった。

羽田—ミュンヘン間、往路は14時間余。北極海上空を通過中は気流が悪く、機内食サービスが一時中断された。復路は中国上空を通り、凡そ12時間余の飛行。往復とも満席だった。

《スナップ写真》



▲ツヴェルファーホルン山頂駅レストラン
(サント・ギルゲン)

【行事記録】

■「山の天気ライブ授業」

報告者 富塚和衛

実施日 令和5年6月17日(土)、18日(日)

参加者 1日目=座学 37名(内一般17名)

2日目=実学 31名(内一般16名)

ヤマテン代表の猪熊隆之天気予報士をお招きして、「山の天気ライブ授業」を令和5年6月17日(土)、18日(日)の両日、蔵王町遠刈田温泉地区を主会場に行いました。この授業は、日本山岳会創立120周年記念事業の一環として企画されている事業で、山岳気象予報士が全国で支部の求めに応じて気象講習会を行うものです。本部支部事業委員会から東北の各支部に講習会開催の打診があり、いち早く手を挙げた宮城支部がこの講習会を実施する事となりました。また、例年実施している山形支部との交流会についても山形支部との話し合いにより、この講習会と抱き合わせて行うこととしました。

因みに、日本山岳会は2025(令和7)年に創立120周年を迎えますが、120周年を記念して「山の天気ライブ授業」の他にも、次のような記念事業が企画されています。

- (1) 全国山岳古道調査事業
- (2) 引き継がれる山岳祭事業
- (3) エベレスト登頂50周年記念フォーラム
- (4) 所蔵図書・資料デジタル化事業
- (5) グレートヒマラヤ・トラバース事業
- (6) ヒマラヤ・キャンプ事業
- (7) 日本・エクアドル外交関係樹立100周年記念友好合同登山

《1日目：座学授業》

座学授業は蔵王町遠刈田温泉公民館の大ホールを会場に行われました。一般参加者の中には、東京や秋田など県外から遠路訪れた方

も居られました。座学に先立ち千石支部長から猪熊講師の紹介を含め開会の挨拶がありました。座学は13時30分から16時30分まで約3時間に及びました。



▲遠刈田公民館での座学授業風景

『JAC宮城・山形支部気象講習会』と題したパワーポイントを使つての座学の概要は以下の通り。

気象遭難のTOP4は、①低体温症、②落雷、③沢の増水、④突風による転滑落、他に雪崩、熱中症。これら気象遭難を防ぐには、登山前日に天気図を確認、登山中は雲や風の確認が必須。確認して気象状況を把握・理解するのに必要となる知識や情報等について、Part I「山の天気の基本」、Part II「最も恐ろしい気象遭難・低体温症の事故」、Part III「落雷と局地豪雨から身を守る」、Part IV「気象遭難を防ぐ方法」の4パートに分けて詳細な解説と説明がありました。

この中で、個人的に知識として持っておきたいなと思ったのは、猪熊講師は小さい頃、「雲」少年だったそうで、雲に係る講義には熱が入っていたこともあるのかも知れないが、「雲」の話。空に浮かぶ雲には色んな雲があるが、分類すると雲形は①巻雲(すじ雲)、②巻積雲(うろこ雲)、③巻層雲(うす雲)、④高積雲(ひつじ雲)、⑤高層雲(おぼろ雲)、⑥乱層雲(あま雲)、⑦層雲(きり雲)、⑧層積雲(う

ね雲)、⑨積雲(わた雲)、⑩積乱雲(入道雲)の10種類。今日は、どんな雲が現れるか観測するのも雲の種類を知っていれば楽しみになる。雲の中には“やる気がある雲とない雲”があるらしい。“やる気”を出している雲が積乱雲。大気が不安定で落雷や局地的豪雨に見舞われる可能性がある。雲を見て意義ある観天望気ができれば登山の楽しみも倍増し、安全登山の一助となることは間違いない。

3時間に及ぶ今回の講義のまとめとして猪熊講師は、次の点を挙げられていました。

- (1) 天気を学ぶ理由を知る
- (2) 天気図から風向と風の強さを読み取る
- (3) 海側から風が吹く時に天気は崩れる
- (4) 低体温症が発生し易い気象条件を知る
- (5) 落雷や局地豪雨から身を守る方法を学ぶ
- (6) 引き返しポイントを設定する

最後は、「今日の講義をしっかりと復習して、安全登山を楽しみましょう！」で締めくくりとなりました。猪熊講師、有り難うございました。

《2日目：実学(フィールド)授業》

昨日の講義で得た知識を基に、2日目は観天望気で山の天気予報を実践する。午前9時に蔵王山頂レストハウスに受講者31名が集合。点呼の後、早速、授業開始。まずはレストハウス内でスケジュールの説明があり、その後、刈田嶺神社奥宮が鎮座する刈田岳山頂へと向かう。

風が少々あるものの、青空に雲が浮かぶ絶好の観天望気日和ではと勝手に思う。空を見上げると、見慣れぬ雲が漂っている。講師に聞けば「レンズ雲」との事。凸レンズのような形をしたこの雲が現れるときは、上空を非常に強い風が吹いている時で、稜線や標高が高い所では注意を要するとの事。また、気圧

の谷が接近している時に現れる雲でもあるらしく、配布された予想天気図上の秋田付近にある気圧の谷の影響だろうとの説明があった。また強風だけでなく、悪天候の兆しでもあるとの事だった。まさに好材料の雲が姿を見せてくれたようだ。



▲お釜の上に現れた「レンズ雲」

刈田岳山頂は山頂と言うよりは、平坦な広場と言った感じだ。ここからは蔵王を代表する絶景「お釜」が指呼の間だ。その一角に、道標が立っている。



▲猪熊講師の即興「いの熊」だ！

突然、猪熊講師がその道標に駆け寄り、両手を挙げ「ガオー！」と吠えた。「熊」繋ぎの即興には参加者も大笑い。

“いの熊”の即興に和んだところで、愈々、熊野岳往復の観天望気だ。右手に乳白色の水面を見せる「お釜」を見ながら、浮かぶ雲を教材に山の天気について説明を受ける。風が結構強く、マイクを使用しての説明だが、中々

聞き取れない。想像をたくましくして耳をそばだてて聞き入りながら講師の後に続く。1時間30分ほどで熊野神社が鎮座する熊野岳山頂へと着いた。この地は山形県の県域だ。ここで昼食を摂り一休み。



▲熊野岳山頂で参加者との集合写真

30分ほど休憩し、参加者全員で記念写真を撮り帰路へ。帰路は宮城県側の避難小屋を経由するコースを採る。避難小屋手前に遭難者供養の石碑がある。

「大正7(1918)年10月23日、教諭4人が引率し151人の生徒が蔵王登山中に、大吹雪に閉じ込められ、道を見失った9人(生徒7人、教諭2人)が遭難死した痛ましい事件」

ここで参加者の一人である「蔵王古道の会」会員の渡辺典男氏から、遭難供養碑の謂れについて詳細な説明を受けた。この遭難は将に「気象遭難」と言うべきもので、鎮魂の意を込めて合掌し気象遭難の恐ろしさを胸に刻み碑を離れた。途中、避難小屋に立ち寄り蔵王山頂レストハウスへと戻った。

レストハウスに戻って、2日間の「山の天気ライブ授業」は無事終了した。講師のヤマテン代表・猪熊隆之氏には、2日間しかも長時間にわたり、お忙しい中、時間を割いて頂き本当に有り難うございました。

気象遭難は登山を愛する者にとって他人事ではありません。他山の石とせず、講義いた

だいた内容をしっかりと復習し、確かな知識として身に着け、気象遭難から身を守り楽しい登山が続けられますよう精進していきたいと思います。これは私だけでなく参加者全員の思いだと思います。猪熊隆之講師、本当に有り難うございました。参加者を代表して改めて感謝申し上げます。



▲熊野岳山頂でマイク使い説明する猪熊氏

■第7回 山形・宮城支部交流会

報告者 富塚和衛

実施日 令和5年6月17日(土)、18日(日)

参加者 山形支部＝鈴木理夫支部長、日向稔也、野堀嘉裕、小林政志、丹野浩之 5名
宮城支部＝千石信夫支部長、高橋二義、草野洋一、千葉正道、富塚和衛、細川光一、八尾寛(以上会員)、鳥田伊志、山田孝司、白幡みち子(以上支部友) 10名 計15名

第7回目となる「山形・宮城支部交流会」を「山の天気ライブ授業」に合わせて行いました。この交流会は、平成27年の6月に『山の日』施行年を次年度に控え、両支部間の親

睦交流登山と位置づけ、多くの両支部会員等登山愛好家に参加できるような『山の日』合同記念事業として企画し、支部間の交流を深めることを目的に実施する事とした事業です。因みに、

- 第1回：宮城支部＝2015年8月：禿岳
 - 第2回：山形支部＝2016年6月：麻耶山
 - 第3回：宮城支部＝2017年8月：南蔵王
 - 第4回：山形支部(兼第34回東北・北海道地区集会)＝2018年10月：出羽三山
 - 第5回：宮城支部(兼第35回東北・北海道地区集会)＝2019年10月：太白山
 - 第6回：山形支部＝2022年7月：蔵王山
- と、計6回開催されて来ました。ただし、2020年度と2021年度はコロナ感染拡大の影響で開催が中止となっています。

この度の7回目の交流会は変則的ではありますが、日本山岳会120周年記念事業の一環として行う「山の天気ライブ授業」と抱き合わせで実施しました。具体的には、ライブ授業は2日間にわたって行われることから、この授業に参加した両支部の会員等が宿泊先のホテルで宴会形式の意見交換の形で行うこととしました。

両支部総勢15名が宴会場に集い、千石支部長の開会の挨拶で交流会は幕を開けました。ひな壇には千石宮城支部長、鈴木山形支部長、小林山形支部会友(前日本山岳会会長)、猪熊ヤマテン代表(山の天気ライブ授業講師)の豪華な面々が鎮座、お酒がノドを潤したところで、参加者全員による3分間のスピーチ。いろんなお話が披露されましたが、特に日焼けしたお顔の前日本山岳会会長の小林山形支部会友が家庭菜園を悪戦苦闘しながら楽しんでいる旨のお話には、多くの方が耳を傾けていました。また小林会友と講師の猪熊氏は大学

山岳部の先輩・後輩でもあるとのことで、宴会場は大いに盛り上がりました。古道調査の進捗状況についても情報交換を行いました。次年度は山形支部担当で交流会を開催することを確認し、鈴木山形支部長の閉会の辞により第7回山形・宮城支部交流会は盛会裏に終了しました。



▲参加者全員で記念写真

■第36回 東北・北海道地区集会、 青森支部創立30周年記念集会 (青森支部 主催)

報告者 千石信夫

7月1日(土)～2日(日)

令和元年に宮城支部で開催した東北・北海道地区集会の後、コロナ禍の影響で開催が閉ざされてきましたが、規制解除を受けて青森支部設立30周年記念集会を兼ね、八戸市内にある八戸プラザホテルで盛大に開催された。参加者は全国から130名を超え、盛況のうちに終えた。

初日の午後に集合し、まず東北5県と北海道の支部長会議が開催された。初対面の支部長もおり、各自、自己紹介など行ったあと議題に入った。2024年、25年の開催地の調整を行い、24年は福島支部、25年は北海道支部ということで承認された。開催時期については未だ決まっていないので、担当支部から決ま

り次第通知することとなった。その他、各支部からの情報交換などを行い閉会した。

午後3時から青森支部創立記念式典が開催された。須々田支部長の挨拶のあと、前支部長の中村勉氏から「青森支部30年のあゆみ」を時系列に、白神山地ブナ林再生事業活動など創立当初のエピソードなどの説明があった。

その後、新会長の橋本しをり氏より新任の挨拶を兼ねた祝辞と続き、記念講演は八戸のは川縄文館館長・古館光治氏から、八戸の風土と歴史について「縄文・古代(戸の話)・根城南部氏。八戸藩、種差など」のテーマで講演があった。八戸の知られざる歴史を垣間見ることができた。

懇親会では、前会長の古野淳氏はじめ首都圏からの参加者も多く、遠くは北九州支部などからも参集、全国的な交流が行われた。須々田支部長の挨拶に始まり、懇親会はさながら全国支部懇談会の様相を呈した。各支部の参加者からは余興が始まり、その他の団体の紹介、アルパイン・スキークラブ、アルピニズムクラブなどが台上にあがり祝辞を述べていた。宮城支部も鳥田笑美さんのリードで“大漁唄い込み”を歌い、何とか盛り上げることができた。

翌2日は、八戸の有名な館鼻岸壁朝市に向き、見学しながら各自朝食を摂った。その後、Aコース(階上岳)とBコース(蕪島・種差海岸散策)に分かれて移動し、それぞれに記念山行を楽しんだ。階上岳グループでは山頂で昼食、全員集合し記念写真を撮り下山。その後、ホテルに帰還し流れ解散となった。

《参考資料：「東北・北海道地区集会」の

過去、宮城支部担当年》

第2回 1983(昭和58)年・・・金華山

※1985(昭和60)年に本会創立80周年記念山

行を宮城支部が担当し、神室山で開催

第7回 1989(平成元年)・・・船形山

第11回 1994(平成6)年・・・七ッ森

第18回 2001(平成13)年・・・大東岳

第25回 2008(平成20)年・・・泉ヶ岳

兼宮城支部設立50周年記念山行

第28回 2011(平成23)年・・・栗駒山

兼第27回全国支部懇談会

第35回 2019(令和元年)・・・蔵王(蔵王古道)

と、過去7回担当している。

〈宮城支部からの参加者〉

千石信夫、千葉正道、冨塚和衛、冨塚眞味子、草野洋一、細川光一、横山哲、鳥田笑美、鳥田伊志 9名

■宮城支部ビールパーティ

報告者 鳥山文蔵

今年の夏は連日猛暑続きで、例年になくクーリングタイムが欲しい季節となりました。

8月3日(木)18時よりJR名取駅前前のサッポロビール園で、恒例の宮城支部ビールパーティを開催。この日の最高気温は33.6度と、8月に入って3日連続の30度超えとなった。

千石支部長の音頭で乾杯した後、しばらくは冷たい生ビールでクールダウン、ジンギスカン料理が焼けたころスタミナアップ!

ようやくノドや箸が落ち着いた頃、出席した会員、支部友より近況報告のスピーチがあった。出席者の大半が、前月のオーストリア・トレッキングに参加したメンバーで、楽しかったトレッキングを語り合う場となり、将に“トレッキング打ち上げ会”的ビールパーティとなった。会場では早くも次回プランの話で盛り上がり、トレッキング・コースのリクエストなどが飛び交っていた。



▲ジンギスカンを囲みながらの談笑

〈参加者〉

千石信夫、千葉正道、草野洋一、冨塚和衛、冨塚眞味子、横山哲、鳥田笑美、鳥田伊志、鳥山文蔵 9名

準 会 員 入 会 紹 介

またまた新しい会員が宮城支部に入会しました。2人の準会員の方々をご紹介します。

○準会員 石川弘子さん(会員番号:A0559)

地元の泉ヶ岳はもちろん、北・南アルプスの縦走にも挑んでいます。1964年生

○準会員 渡辺典男さん(会員番号:A0562)

千石支部長のお膝元である亘理郡にお住まいで、「蔵王古道の会」の会員です。1954生
会員の皆様、よろしくお願ひします。

お 詫 び 訂 正

前号『宮城山岳通信』第29号(2023年7月14日発行)の11ページ、右段上から9行目にある「後日、白井会員からのお礼のメールに——」は、筆者の勘違いで白井会員ではなく、「八尾会員」の誤りでした。訂正させていただきます。

【今後の行事予定】

☆9月20日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆9月23日(土・秋分の日)

秋山山行(月山・姥沢コース)

☆9月23(土)～24日(日)

全国支部懇談会(群馬支部主催)

会場:水上温泉・谷川岳周辺

☆10月15日(日)

第13回親子登山教室(戸神山)

☆10月18日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆11月11日(土)

第12回登山教室(場所未定)

☆11月15日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆12月10日(日)

初冬山行(場所未定)

諸事情により日程、場所が変更する場合は、何卒ご了承下さい。

【編集後記】

今年の夏は、本当に暑い日が続きましたね。8月の仙台は記録的な酷暑となりました。30度を下回ったのは1日だけ、真夏日が30日間。また8月の平均気温は28.6度と平年より4.2度高く、平均最高気温は33.2度で平年より5度も上回るという観測史上最多、最高の月間記録を更新しました。

こうした暑さの中、仙台七夕まつりをはじめ各地の夏まつりや花火大会など、コロナ禍以前の規模で開催され、久しぶりに賑わいました。一方、低山の山に出掛けた方は、大変だったことでしょう。お察しします。

この「宮城山岳通信」が皆様の手元に配信されるころには、秋の気配が漂ってきて欲しいと念じております。

会報・編集出版委員長 鳥山文蔵

宮城山岳通信 第30号

発行 公益社団法人 日本山岳会宮城支部

発行日 2023年9月7日

発行人 千石信夫

会報・編集出版委員会 鳥山文蔵、千石信夫、冨塚和衛、三宅 泰

事務局 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中9-12 (冨塚宅)

連絡先 TEL 090-2790-3771